

■■■ 2014年度総会報告 ■■■

5月24日、K F Cの2014年度総会が開催されました。

総会に先だち、全体の学習会としてK F C李圭燮副理事長から「在日コリアンとは」というタイトルでの話をしてもらいました。

在日コリアン2世である李圭燮（이규엽）副理事長の原点は、教育も受けられず16歳で結婚し日本へ来たオモニ（お母さん）が在日コリアン、傷痍軍人といった弱者の多く住む春日野道という街で男尊女卑のなかで夫を支え11人の子どもを育てながら、食堂経営を皮切りにアパート経営など逞しく商売を広げながら同時に弱者への善行から地域の住民からも「オモニ」と慕われていた思い出にあるという話をされました。

副理事長の育った時代は、苛烈な民族差別が蔓延していた時代であり、幼少期の学校でのいじめ（朝鮮人差別）や自らの吃音などもあり自己否定になりそうな状況があるなかで出会った「人の平等」を教えてくれた教師の存在があり、今もそのことが糧になっているということでした。

大学や韓国留学生活で自らの民族の歴史を学ぶなかで目覚め、いままで韓国の問題や在日コリアンの問題に取り組んできているが、決してそれは狭い民族主義を基盤にしているのではなく、「人は平等である」という普遍的な人権の問題や弱者でありながらも弱者を支援していたオモニのやさしさが自分の基盤であるという話をされました。

現在、在日コリアン団体の役員もしている李圭燮副理事長は、在日コリアンが世代交替していくなかで継承していくものを共有することが難しくなっているが、次世代に役立つものを渡していくことの大切さを考えていると話してくれました。

学習会のあと、2013年度の報告、役員改選、2014年度計画審議という順番で総会が進められました。事業報告としては、個別の事業報告とともにK F Cの事業拡大に伴う成果を踏まえながらも急速な拡大に伴う「何故在日マイノリティの社会課題にマジョリティとマイノリティが共に取り組むのか」という理念が希薄化していることを踏まえ阪神・淡路大震災のあとに芽生えた国籍や民族を超えた共生の原点を進めていくことの大切さが確認されました。

役員改選では発足依頼、K F Cを支えてくれた中村通宏副理事長が長年の夢であるベトナムとの交流拠点をベトナムに作ることに力を注ぐため理事を退任、顧問に就任、中村通宏副理事長とともにK F Cと事務所を同じくする日本ベトナム友好協会の理事長であり、グループホーム・小規模多機能型居宅介護ハナの施設長でもある山根香代子新理事が就任することになりました。またグループホーム建設資金借入時に協力してくれた金東吉理事も退任することとなりました。

事業計画では2014年度は、2013年度の反省も踏まえ、人が人を支える温かさ、排除される人を包摂する豊かさ、人の役に立つやりがいから生まれたK F Cであることを伝え育てる年にすることを第一の目標とし各事業に取り組むことが確認されました。（理事長 金 宣 吉）

◆総会事前学習会「在日コリアンとは」

総会事前学習会の報告をインターンの池本さんも寄せてくれましたので、以下、掲載させていただきます。

「私（李圭燮副理事長）は在日2世で、明石の朝鮮部落に生まれました。その後神戸の在日の

集住エリアに移住し、食堂を経営する母親のもとで育ちました。

学生時代に差別を受け、自分が周りとはちがうということに気づかされましたが、親はどう生きていたのか、なぜ自分がいじめられなければならないのかということは大学生になるまでわかりませんでした。しかし、学校の先生が味方になってくれ、吃音を克服する話し方や、当たり前のことではあるが、『人はみな平等』という非常に大切なことを教えてくれました。この経験から、子どもの教育は本当に大事で、先生の背中と世の中の背中を見て育っていることを先生も自覚し、先生はその責任をもって務めなければならないと感じました。

大学時代には韓国学生同盟に参加し、今まで知らなかったこと、つまり自分のルーツやアイデンティティについて知ることができました。中には未だに付き合いのある人もいます。大学を卒業して一年韓国留学した際には、日本生まれの韓国人ということで、“パンチョッパリ (=半日本人)”と呼ばれ、韓国人は在日コリアンとその背景について無知であるということがわかりました。

そして現在、在日コリアンは5世にもわたり、日本人と結婚するケースが非常に多くなっています。彼ら自身のルーツが韓国人である、という感覚は失われつつあり、それすら知らない在日コリアンも少なくはありません。日本では、学校に入る時に他国の名前のままだといじめられる可能性があるのも、日本名を使わせることが多くなっています。外国にルーツを持つ人々にとって住みにくい社会ができてしまっているのが現実です。例えば、『私の父は韓国人で、母は日本人!』と胸を張って言える人はどれだけいるのでしょうか。どこの国の人であってもが共に生きていく仲間として、アイデンティティをしっかりと主張して暮らしていけるような、住みやすい社会になるようにしていかなければならない」と締めくくられました。

(インターン 池本 知左)

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆KFC研修会「ベトナム人にとって日本語学習の何が難しいか」 報告

6月14日(土)にKFC研修会が行われました。今回は、神戸大学の留学生であるLe Thi Hueさんが、「ベトナム人にとって日本語学習の何が難しいか」について話してくださいました。

アルファベットのみを使うベトナム語とは異なり、日本語はひらがな、カタカナ、漢字を混用するという根本的な文字文化の違いがあります。漢字圏出身者は漢字を見ただけである程度の意味が分かりますが、ベトナム人にとってはただの絵のように見えます。読み方も音訓の複数があり、覚えるのに苦労します。発音においては、チ・シ・ツ・フ・ヤ行は難しく、音の長短が判別しづらいです(普通→フツ? フツー?)。また、助詞の使い方や主語の省略、アクセント(雨と飴)、方言、敬語など、戸惑うことは多いようです。語尾のニュアンスから話し手の年齢、性別、感情などをどう読み取るかについて、文法の教科書は教えてくれませんし、謙遜や婉曲のニュアンスも文化の違いのため分かりにくいです。同音異義語、和語と漢語、文語と口語、擬音語、熟語や慣用句(「手」を含む言葉)、一人称、和製英語、略語、といった日本語の語彙の豊富さが学習者にとって壁になります。

研修会のなかで、「それは日本人でも難しい」という声があったように、ネイティブスピーカーでさえ、正しい日本語を使えているとは言えません。その拙さを、日本人が共有する背景知識で補うことで、齟齬や誤解を含みつつもコミュニケーションは成り立っているのでしょう。学習支援の際には、日本語母語話者でさえ正しく理解していない言葉、或いは、母語だからこそ正しく理解せずとも使える言葉たちを、曖昧なままでなくきちんと整理して教えることが必要なのだと感じました。そのためには、日本人が無意識にできたり当たり前に分かっていたりする「当たり前」という暗黙の了解を、言葉にして見えるようにしなければなりません。その作業は、ど

こが分からないかを知っているノンネイティブの人のほうがやはり得意なのでしょう。

言葉は人と共に生きています。人間の世界がダイナミックで流動的であるように、言葉の世界にも趨勢の歴史があります。語る人が変わってゆくのがだから語られる言葉も変化して当然です。言語は単なるツールではなく、そこには文化があり、人がいます。その意味で、「教科書の」日本語はあっても「正しい」日本語は無いといえるでしょうし、言語接触（異言語同士の摩擦）とは人の交わり、文化の交わりでもあるのでしょうか。日本語学習の目的は人それぞれだと思いますが、私個人としては日本語の新たな担い手がまた一人増えることを純粋に嬉しく思うのです。

日本語学習の困難についてだけでなく、名前についてのお話もありました。ベトナムに54つある民族のうち、人口の80%以上を占めるキン民族（ベトナム民族）の名付けについて、話していただきました。普通は父の姓を受け継ぎ、伝統的には性別でミドルネームが決まりますが、近年はミドルネームを抜いたり、母の姓をミドルネームにしたり、名に合うミドルネームを付けたりすることもあります。また、結婚しても女性の姓が変わらないこと、普段の生活で名字を使わないことは日本と違うところです。目上の人に対しても、「Anh ~」、「Chi ~」などの敬称を付けて名で呼びます。

名前はその人のアイデンティティに深く関わるものですが、エスニック・マイノリティの名前の扱い方が広く周知されているとは言えない現状です。在日韓国・朝鮮人の通名に関する問題だけでなく、あらゆる在日外国人が（とりわけ戸籍や初等学校において）多かれ少なかれ問題に直面します。まずは「グエンさん」ではなく名で呼ぶことから状況は変わっていくと思います。（神戸大学 瀧井 建仁）

■■■ K F C 外国にルーツを持つ子どもの学習支援 ■■■

◆日本生まれの子どもの学習課題

縁あってKFCによる外国にルーツを持つ子どもの学習支援の手伝いをするようになって一年半が経ちました。

ここに通ってくる子どもの多くが日本で生まれ、会話に不自由なく、興味や関心なども街中で見かける子どもたちと同じように見えます。しかし家でも親世代との会話は母国語と言うこともあり、日本語の読み書きができて、その意味をはっきり分かっていない場合がしばしば見受けられます。

そのようなことから文章を読んで問いに答える形式では国語も算数でも時間がかかりますし、ときには意味の取り違えが生じています。小学校の教室でも先生のお話や説明の一部で分からない部分があっても、そのまま済ませている場合があるかもしれません。

KFCの教室には教科書、参考書、辞書のほか学習ドリルなどが用意されており、分からないことや、ほんとうかなと感じたときは、教科書を読み直して授業でのことを思いだしたり、辞書を開いて確かめてみるといった作業を自分ですることができるようになっていきます。面倒でもこのような習慣を身に付けて、自分独りで勉強ができるようになってくれたらいいなと願っています。自分で考えたり、調べたりして納得できたことは、なかなか忘れないものです。

私自身が子どもの頃、まじめにした記憶がないためか、子どもたちに教えることの難しさを実感していますが、「教えることは学ぶこと」と自分に言い聞かせ、孫のような子どもたちと接することを通じて、私も学ばせてもらっています。（中西 信之）

◆松阪市視察報告

6月23日（月）に松阪市教育委員会主催の初期指導教室「いっぽ」を参観させていただきました。

会場は松阪市駅から車で15分程のところにある松阪市子ども支援研究センターで、参加者の小・中学生は主に1回100円のルートバスを利用して来ています。登録者はフィリピンルーツ19名、中国ルーツ1名の20名で、待機者が11名もいるとのことでした。

学校生活に繋げていくことを目標とされており、学習以外に朝の会、帰りの会、いっぽタイムでのそうじ、給食、日本の行事体験などのプログラムが用意されています。

日本語学習は、三重県国際交流財団作成の「みえこさんのにほんご」を使用し、終わったら卒業（平均4ヶ月）となるそうです。

教育委員会主催ということもあって、多くの元教員の方たちが関わられており、学校のことを理解し、繋ぎの役割を意識した運営がなされていました。また子どもがのびのびと楽しく学習している様子を拝見し、やる気も育てる初期指導の重要性を再認識しました。

松阪市教育員会では、上記以外にも様々な取り組みが実施されています。紙面では紹介しきれませんが、8月22日（金）に海外移住と文化の交流センターでお話いただくことになっていますので、関心のある方はぜひ「『多文化共生』を考える研修会」にご参加いただければと思います。（志岐 良子）

■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

◆神戸まつりに参加して

日本に住んでいる残留邦人の現在直面している課題は、みんなの力を合わせて共に美しい未来を開いていくことであると思います。

KFCは私たち帰国残留邦人のために、有利な環境を提供してくれました。人力、物質、講師の面だけでなく、場所などを提供しいろいろな面から支援を与えてくれています。

KFCは、各自の日本語のレベルに合わせて日本語学習も企画してくれています。

また、たくさんのレクリエーションも企画してくれています。ヤング踊りチームの専用服装、太鼓、ゴングなどの楽器も揃えてくれました。私たち中国東北出身の人たちが一番好きなヤング踊りを日本で再び楽しめる機会を作ってもらい、老後を迎える私たちに学ぶ機会、楽しむ機会と環境を与えてくれました。

ヤング踊りチームメンバーの平均年齢は、65歳以上で、ほとんどのメンバーは健康に恵まれていなく、長年の苦勞で健康を損なっています。しかし、みなさんは学習、レクリエーションなどには積極的に参加しています。中にはヤング踊りの基礎から熱心に学ぶメンバーもいます。

皆さんの努力の元で、私たちは二回も神戸祭りでヤング踊りを披露することができ、皆さんの好評を受けました。私たちは人生の大半を中国文化の中で過ごし、日本の文化に触れてまだ間もなく、文化の違いを感じながら生活している。

神戸祭りでは、色々な国の文化、芸術がそれぞれの多彩な演出を通して、神戸市民の芸術に対する追及を表現しています。勤勞、善良な民族性と綺麗な踊り姿は、神戸市民に年に一度の楽しみと喜びをもたらしてくれています。

色々な国の踊りは、神戸祭りに一層綺麗な風景を増しています。当日は何万人の市民が各地から三宮の町に集まってきます。皆さんは秩序正しく色々な出し物などを見て回り、皆さんは思わず嬉しい表情を隠せません。もちろん私たちヤング踊りチームの踊りも皆さんから盛大な歓迎を受け、神戸祭りにもう一つの花を飾ることができました。これは私たち在外残留邦人が社会貢献でやるべきことだと思います。

すでに老後の生活を迎えている私たちは、人生の大半を中国で過ごし、日本に戻った時は、既に歳をとっていて、人生の残りの時間も多くはありません。

神戸まつりに参加し、皆さんの前でヤンガ踊りを披露し、皆さんから認めてもらったということは私たちにとっては何より嬉しいことです。社会のために何かできるということは、私たちの強い願いでもあります。

今後もKFCの企画の元で、一層頑張り毎日楽しく、向上精神をもってヤンガ踊りなどいろいろな活動に積極的に参加します。

ヤンガ踊りを通して、自分たち自身を磨き、楽しい老後生活を送りたいです。ヤンガ踊りの独特な表現を通して私たちの楽しい人生そのものを表現し続けていきたい。（李 賀：原文中国語）

◆舞鶴へ遠足に行ってきました！

6月10日（火）に帰国者81名、ボランティア・スタッフ6名で舞鶴の引揚記念館、とれとれ市場などに遠足に行きました。

以下は、参加者の方からのご感想です。

6月10日火曜日、朝、天気いいです。

私と全体人員、バスに舞鶴旅行、行きます。道の両面は山や多くて、海があって、広くて、きれいです。赤レンガ博物館を見たら、引き揚げ記念館の見て、それは五岳ヶ公園展望タワー高くて、下見したら山や海や建物を風景が全部きれいです。いちばん好きです。

お昼を一緒に食事、食べます。皆さま歌を歌って、写真を撮ったり、お話して本当にうれしいです。感謝、理事長と呼和さんの私たちに対する思いやりと支援、また今日の楽しい思い出、幸せな一日は一生忘れられない。

ありがとうございます。(村上秋子)

今回はバス旅の天気がいいです。あつくもなく、さむくもなかった。レンガ館や引き揚げ館など初めて見て感動しました。一生忘れません！次は沖縄でいきたいです。沖縄のあおい海でおよぎたいです。魚釣りもやりたいです。お願いします。(志村景男)

舞鶴旅行行きました。とても楽しかったです。舞鶴引揚記念館は歴史みてから旧満州中国東北で13年間に66万4531人帰ってきた。自分たちはもっとおくれて帰ってきたので、日本語がわからず、大変くろうしていますが、勉強して自由に話せるように頑張ります。(胡 艶 霞)

今回は、バス旅行の天気がいいし、あつくもなく、さむくもなかった。空気がいいです。まいづるは風景がすごくきれいです。みんなは楽しみました、次は沖縄へいきたいです。沖縄のあおい海でおよぎたいです。お願いいたします。たのみます！

(的野 建夫)

今回の旅行は天気もいいです。くもりだった。あつくもなく、さむくもなかった。バスでは、みなさんほんとううれしかった。舞鶴来て、心ではたのしです。私は“展望台”みて、日本の風景が美しかった。つぎは奈良に行きます。お願いします。(李 賀)

エレベーターに乗って、展望台に上って、舞鶴の景色へ見て、気持ちがとても良さそうです。美しい日本、どこでも綺麗でしたね。

つぎは三重県のスペイン村と伊勢神宮へ行きたいです。

今回のバスツアーで私の母の前の夫、日本への引き揚げの船の模型を見ました。この船はいつから出航、引き揚げ者の人数や航海回数などいつ解体するのか、わかりました。ちなみに母の前の夫、上陸の日付と私の証明手続きの日付が同じです。調べて良かったと思いました。一方、私は帰化した時、とても大変でした。母の複雑な歴史のことで、法務局から聞いて、後は神戸家庭裁判所と法律事務所に行き、私の身分証明を判明して、いただきました。

記念館の中の展示物を見てみると、辛く悲しいです。これは残酷な事実でした。最近、二、三年、日中関係がいろいろのトラブルを発生しています。中国は私の生まれた、育ての国です。然し、日本は私の第二人生の国です。やはり最後までのご郷です。現時点の状況で、とても不安です。できる限り、両国をお互いに会話するように、特に政府方面を必要ですか。日本と中国が一番近いの国です。アジアの平和、最も重要な位置です。平和だったら、両国も盛んです。心から、平和万歳をお祈りします。（石垣 深波絵）

今日はお天気に恵まれてとても気持ちいい晴れの日だった。皆さんはバスに乗って、舞鶴に向かった。

皆さんの気持ちも今日のお天気のように、とても晴れていた。目的に着くまでバスの中はずっと歌声と話し声で溢れていた。

私たち一行はあっという間に舞鶴の『展望台』に着いた。中国のある詩人が“より遠くを見るには、一層高いところに登る”と言ったように、私たちは展望台からより高いところに登り、遠くまで広がる広い海、山々を眺めながら、まるで絵のような風景に魅了され、心は言葉で表現できないほどの神秘的な境地に陥った。大きな声を出して歌でも歌いたい気分だった。

次回は、奈良に行ってみたいと思う。（馮士花：原文中国語）

■■■ ハナの会 ■■■

◆ハナの会識字活動

私は、KFCに入るまではパン製造を約10年、屋根の瓦の葺き替え仕事を約10年しました。パンの製造と屋根の仕事の流れを少しお話ししたいと思います。パン製造で出来上がるまでの一通りの流れは、まず仕込みから入り、ミキサーで捏ねて、発酵させ「分割」し、一個ずつ決められてグラム数で計ります。その後、また発酵させ成形して「ホイロ」発酵室に入れて、そのパンに合った発酵基準になったら出し、といた玉子を刷毛つけてパンに塗り、オーブン窯で焼いて、そのパンに合った焼成をしてオーブン窯から出してパンをお店に出します。

次は、屋根の葺き替えの仕事ですが、私は新築の葺き替えを6年間し、その後「アフターサービス」屋根の瓦の修理を約4年間しました。

その後、ハローワークに月に2～4回通い、仕事探しの毎日が続きました。やっと今年の3月にKFCに入社しました。

現在私は、ハナの会のデイサービスセンターに勤務しています。私は、デイサービスセンターに勤め始めて、もうすぐ3か月になります。初めて介護の仕事に携わりますが、利用者様の中にはベトナムの方、中国残留邦人の方、在日韓国・朝鮮の方がいて、ほとんどの方が日本語を話せるので安心しました。中には日本語があまり理解できない方もいますが、デイサービスセンターには、通訳ができる介護職員がいるので安心です。デイサービスセンターハナの会は他国の人々の言葉の壁を取り除いてくれているので、すぐに利用者様の対応ができ、素晴らしい職場だと思います。そして、介護の仕事を通して、利用者様によっては要支援、要介護などと介護度が違い、そして同じ体の部分でも利用者様によって痛み具合が違うことがわかりました。ここに来られている方々の半数が杖を持って来られています。車いすで来られている方もいて、足の不自由な方

が半数を占めています。その原因として脳梗塞や躓いて足や手の骨折や脊髄損傷といったことが挙げられます。このような足の不自由な方々には、その日その日の体調具合を見極め、その微妙な変化を介護職員と介護にかかわる人たちが連携して、容態をチェックし、決して主観的にならず客観的に利用者様を見るようにしていきたいと思ひます。そして、今は少しずつであります、介護の勉強を続けています。利用者様の役に立てるように頑張っていきたいと思ひます。簡単ではあります、これで私の自己紹介は終わります。

皆さまよろしくお願ひいたします。 (山下 孝博)

■■■ グループホーム ハナ ■■■

◆梅雨をふっとばす

6月になり、ようやく各階のリーダが揃いました。天候不順にもめげず、グループホームハナと小規模多機能型ハナでは2014年度の活動を開始しています。

「歌に合わせて銭太鼓を鳴らしました」

行事では、4月にポートアイランド内の公園に行ったのを皮切りに5月には明石海峡大橋を渡りレストランで昼食を行いました。6月は外食を各階で取り組み、更に6月25日には銭太鼓同好会の皆さん(4名)による銭太鼓を鑑賞しました。

これは兵庫ボランティア協会から5月に紹介があり、申し込んだものです。銭太鼓は五円玉の入った筒を両手に持ち、それを演歌や民謡に合わせて振り回して演技をする大衆芸能です。筒も紅白で彩られ五円玉の音に鈴の音が混じって、とても華やかです。『一円玉の旅がらす』『花笠音頭』『森の石松』等4曲を披露され、利用者さんの中には、嬉しくて泣き出す方もありました。職員と利用者さんも一緒にボランティアの指導のもと、歌に合わせて銭太鼓の体験をしました。楽しいひと時を過ごしました。次回は9月に予約をしました。

「長谷川式簡易知能評価スケール実施」

昨年に引き続き、今年もグループホームの利用者さんに、長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)を実施することにしました。

このテストは認知症の診断の一つに用いられるもので、30点満点で20点以下だと認知症の疑いがかかります。

職員によっては昨年と同じ利用者さんを実施したケースもありましたが、新たな職員にも事前オリエンテーションをして取り組んでもらいました。コミュニケーションの取れない利用者も昨年より1名増え対象は14名。今年も小規模多機能を利用している4名を対象にしました。

一桁台の利用者がほとんどですが、99歳の利用者(小規模多機能利用)さんは21点と点数が高いのに驚きの声。年齢とは関係ないんですね。

このテストをする場合、プライドを傷つけないために家族と一緒にには行いません。また他の人に知られることを嫌がる人もいらっしゃいますから、原則は個室で行います。質問の仕方でも、声のトーンや間の取り方なども影響しますから、テストを行う事は熟練を要します。

職員教育の一環で行っています。

「地域の人との連携進む」

今年度の学習会もスタートしました。4月は金理事長の『コリアンの移住、人口動態』。5月は、めーまい薬局の薬剤師さんによる『高齢者のための薬の知識』を聴きました。普段疑問に感じている事なども率直に質問をし、回答をしていただきました。また第2弾目を企画したいと思ひ

ています。

6月5日は神戸協同病院のスタッフ(CE)2名による、『AEDについて』のお話と実技行いました。人形も2台ありましたので2チームに分かれて全員実習を行いました。

共に、地域の専門家との連携で実現しました。

今後もあらゆる繋がりを通して、地域との、また地域の専門家との連携を図っていきたいと思います。 (山根 香代子)

■■■ 今後の予定 ■■■

■子ども交流会、工作教室

8月6日(水)

10:00～16:00 福島の子どもの交流会 於 しあわせの村

8月7日(木)

15:00～17:00 工作教室 於 moi (多文化子ども共育センター)

■中国帰国残留邦人帰国者交流事業

7月22日(火) 暑気払い

9月16日(火) しあわせの村遠足

■日本語プロジェクト研修会

7月26日(土) 13:30～16:00

日本語学習記録簿の活用～自立学習に導く一歩目として～

青木 直子(大阪大学)

■KFC研修会

9月13日(土) 13:30～15:00

「内容未定」 於 KFC事務所

■すきやねん！KFCキャンプinしあわせの村Ⅱ

(福島県の子どものための一時保養事業)

8月3日(日)～8月9日(土)